

— 学 会 記 事 —

2025 年 一般社団法人日本鳥学会理事会 メール審議（2025 年 2 月第一回）議事録

日時：2025 年 2 月 3-5 日

方法：電子メール（理事会メーリングリスト）

メール審議参加者

理事の総数 7 名

理事回答数 7 名

綿貫 豊（会長・代表理事），嶋田哲郎（副会長），
川上和人，高木昌興，高橋満彦，早矢仕有子，松
井 晋（事務局長・議事録作成）

監事の総数 2 名

内容を確認監事数 2 名 森口紗千子，関 伸一
事務局 植田睦之（会計幹事），風間健太郎（庶務
幹事）

議長 会長 綿貫 豊

メール審議の成立

定款第 35 条の規定に基づき，綿貫 豊会長を議長とする理事会メール審議を実施した。理事 7 名からの回答を得て，事務局より定款第 36 条に基づき本審議は有効に成立した旨を伝えた。次いで，議長は，定款第 38 条の規定により，議事録署名人は議長及び内容を確認した監事を指名すべきことになっている旨を説明，森口紗千子監事を指名し，本人も承諾した。

1. 審議事項

(1) 『瀬戸内海（周防灘）の生物多様性保全の見地から北九州市の「企業誘致加速大作戦」の再検討を求める要望書』

鳥類保護委員会の委員長が他学会の保全委員会の委員長と連名で，瀬戸内海の生物多様性保全に関する要望書を関係各所に提出することが全会一致で承認された。

2025 年 一般社団法人日本鳥学会理事会 メール審議（2025 年 2 月第二回）議事録

日時：2025 年 2 月 9-17 日

方法：電子メール（理事会メーリングリスト）

メール審議参加者

理事の総数 7 名

理事回答数 6 名

綿貫 豊（会長・代表理事），嶋田哲郎（副会長），
川上和人，高橋満彦，早矢仕有子，松井 晋（事務局長・議事録作成）

監事の総数 2 名

内容を確認監事数 2 名 森口紗千子，関 伸一
事務局 植田睦之（会計幹事），風間健太郎（庶務
幹事）

議長 会長 綿貫 豊

メール審議の成立

定款第 35 条の規定に基づき，綿貫 豊会長を議長とする理事会メール審議を実施した。理事 6 名からの回答を得て，事務局より定款第 36 条に基づき本審議は有効に成立した旨を伝えた。次いで，議長は，定款第 38 条の規定により，議事録署名人は議長及び内容を確認した監事を指名すべきことになっている旨を説明，関 伸一監事を指名し，本人も承諾した。

1. 審議事項

(1) 『(仮称) 苫東厚真風力発電事業計画の評価再調査・事業変更を求める要望書』

日本鳥学会会長が日本生態学会会長と連名で，苫東厚真風力発電事業計画の評価再調査・事業変更を求める要望書を関係各所に提出することが承認された。

2025 年 一般社団法人日本鳥学会理事会 メール審議（2025 年 2 月第三回）議事録

日時：2025 年 2 月 22-28 日

方法：電子メール（理事会メーリングリスト）

メール審議参加者

理事の総数 7 名

理事回答数 7 名

綿貫 豊（会長・代表理事），嶋田哲郎（副会長），
川上和人，高木昌興，高橋満彦，早矢仕有子，松
井 晋（事務局長・議事録作成）

監事の総数 2 名

内容を確認監事数 2 名 森口紗千子，関 伸一
事務局 植田睦之（会計幹事），風間健太郎（庶務
幹事）

議長 会長 綿貫 豊

メール審議の成立

定款第 35 条の規定に基づき，綿貫 豊会長を議長とする理事会メール審議を実施した。理事 7 名からの回答を得て，事務局より定款第 36 条に基づき本審議は有効に成立した旨を伝えた。次いで，議長は，定款第 38 条の規定により，議事録署名人

は議長及び内容を確認した監事を指名すべきことになっている旨を説明、森口紗千子監事を指名し、本人も承諾した。

審議事項

- (1) 一般社団法人日本鳥学会ポスター賞規程改正について

企画委員会より提案されたポスター賞規程の応募資格変更と受賞者拡充に関する改正が全会一致で承認された。

2025 年 第 1 回一般社団法人日本鳥学会 理事会議事録

日時：2025 年 3 月 8 日（土）9 時 00 分 -11 時 20 分

場所：Zoom 会議

出席者

理事の総数 7 名

出席理事数 7 名

綿貫 豊（会長・代表理事）、嶋田哲郎（副会長）、川上和人、高木昌興、高橋満彦、早矢仕有子、松井 晋（事務局長）

監事の総数 2 名

出席監事数 1 名 関 伸一

事務局 植田睦之（会計幹事）、風間健太郎（庶務幹事・議事録作成）

事務局補佐 三上かつら（議事録作成）

オブザーバー 藤田 剛（和文誌編集・大会支援）
上野裕介（英文誌編集）、小田谷嘉弥（日本産鳥類記録）西海 功（鳥類目録編集）中原 亨（企画）
森 さやか（広報）、堀江明香（ダイバーシティ推進ワーキンググループ）

議長 会長 綿貫 豊

開会

定款第 35 条の規定に基づき、綿貫 豊会長が議長となり理事会を開会した。事務局より定款第 36 条に基づき、定足数について、理事 7 名が出席しており、本日の会議は有効に成立した旨を告げた。

次いで、議長は、定款第 38 条の規定により、議事録署名人は議長及び出席した監事を指名すべきことになっている旨を説明、関 伸一監事を指名し、本人も承諾した。

1. 審議事項

- (1) 2024 年度決算について

植田会計監事より、2024 年度の一般会計、特別会計、収支の説明があった。関監事より、今年度の会計について適正と認めたことが報告された。質疑ののち決算は承認された。

- (2) 学会誌販売の取りやめの提案および学会誌の今後の管理について

植田会計幹事より、節税のための学会誌の販売を取りやめが提案され、承認された。2025 年度分についてすでに申し込まれたものについては返金処理を行う。

- (3) 鳥類学用語集のオンライン公開および学会図書管理の現状と今後

松井事務局長より学会図書関連の現状、在庫がなくなった用語集のオンライン公開について説明があり、承認された。これに加え、意見聴取する予定だった目録第 1-7 版のオンライン公開についても、西海鳥類目録編集委員長より議題化の要望があり、審議ののち目録第 1-7 版のオンライン公開が承認された。

- (4) 寄付金等に関する規程改正案

松井事務局長からこれまで学会年会費と一緒に寄付されていたような少額の寄付について従来通りやりやすくなるための規定改正案（＜一般社団法人日本鳥学会寄付金等に関する規程＞の第 4 条と第 5 条.）について提案があり、承認された。

- (5) 風力発電等対応ワーキンググループ新メンバー追加（長谷川 理氏）について

松井事務局長より風発ワーキンググループのメンバーとして長谷川 理氏が加わる旨が諮られ、承認された。

- (6) その他

特になし

2. 意見聴取事項

- (1) 鳥類目録第 7 版以前のオンライン公開について

議題 (3) へ統合

- (2) ダイバーシティ推進宣言

堀江ダイバーシティ推進ワーキンググループ長より、本宣言について、基本的には DEI に基づいた行動指針を整えた旨の説明があり、今回聴取した意見も踏まえ、次回は議題として提案するための準備を整えることとなった。

- (3) 学会誌のペーパーレス及びオープンアクセス

の現状と課題

上野英文誌編集員長より英文誌 OA 化に関する訂正事項および現状に関する説明がなされた。次に、藤田和文誌編集副委員長から和文誌の現状報告がなされた。3 つ目に、松井事務局長より OA 化にともなう学会誌の著作権の選択肢についての説明がなされた。検討は継続。

(4) その他

事務局より、松井事務局長より学会費の振込手数料についての現状と課題について説明がなされ、意見聴取がなされた。検討は継続。

3. 報告事項

(1) 寄付金申込書を鳥学会ウェブページ上での掲載

松井事務局長より、寄付金申込書についての説明があり、申込書は意見を踏まえウェブサイトに掲載されることとなった。なお 3/8 現在ウェブサイトに掲載されているゆうちょの口座については、振り込まれたものが会費か寄付かの種別が判別できない状況になりうるので（サイトからは）削除（サイトの表示を整理）予定。

(2) 2024 年度事業報告（理事会代議員総会報告事項）

議題（1）と統合

(3) 功労賞（仮称）設置検討グループ報告

高木理事より、功労賞についての提案は取り下げる旨の報告があった。労賞設置検討グループは解散した。

(4) その他

特になし

4. その他

特になし

5. 連絡事項

(1) 今後のスケジュール（委員会規定等の改定スケジュール等の確認）その他

松井事務局長より、今後の理事会、代議員総会、選挙、事業計画、会計などについて説明がなされた。

2025 年 一般社団法人日本鳥学会理事会
メール審議（2025 年 5 月）議事録

日時：2025 年 5 月 1-8 日

方法：電子メール（理事会メーリングリスト）

メール審議参加者

理事の総数 7 名

理事回答数 7 名

綿貫 豊（会長・代表理事）、嶋田哲郎（副会長）、川上和人、高木昌興、高橋満彦、早矢仕有子、松井 晋（事務局長・議事録作成）

監事の総数 2 名

内容を確認監事数 2 名 森口紗千子、関 伸一
事務局 植田睦之（会計幹事）、風間健太郎（庶務幹事）

議長 会長 綿貫 豊

メール審議の成立

定款第 35 条の規定に基づき、綿貫 豊会長を議長とする理事会メール審議を実施した。理事 7 名からの意見を得て、事務局より定款第 36 条に基づき本審議は有効に成立した旨を伝えた。次いで、議長は、定款第 38 条の規定により、議事録署名人は議長及び内容を確認した監事を指名すべきことになっている旨を説明、関 伸一監事を指名し、本人も承諾した。

審議事項

(1) 第 16 回日本学術振興会育志賞の受賞候補者の会長推薦について

第 16 回日本学術振興会育志賞について、応募者の田谷昌仁氏を日本鳥学会から受賞候補者として会長推薦するかどうかは、綿貫会長に一任することとなり、会長より推薦することが伝えられた。

2025 年 第 2 回一般社団法人日本鳥学会
理事会議事録

日時：2025 年 7 月 10 日（木）11 時 00 分 -12 時
30 分

場所：Zoom 会議

出席者

理事の総数 7 名

出席理事数 6 名

綿貫豊（会長・代表理事）、嶋田哲郎（副会長）、川上和人、高木昌興、早矢仕有子、松井 晋（事務局長）

監事の総数 2 名

出席監事数 1 名 森口紗千子

事務局 植田睦之（会計幹事）、風間健太郎（庶務幹事・議事録作成）

事務局補佐 三上かつら（議事録作成）

オブザーバー（議題1・2終了のち11:15頃から入室）堀江明香（ダイバーシティ推進WG）、中原亨（企画）、金井 裕（日本産鳥類記録）、山口典之（大会支援）、澤 祐介（保護委員長）、安藤温子（英文誌編集）、上沖正欣（広報）

開会

定款第35条の規定に基づき、綿貫 豊会長が議長となり理事会を開会した。事務局より定款第36条に基づき、定足数について、理事6名が出席しており、本日の会議は有効に成立した旨を告げた。

次いで、議長は、定款第38条の規定により、議事録署名人は議長及び出席した監事を指名すべきことになっている旨を説明、森口紗千子監事を指名し、本人も承諾した。

1. 審議事項

(1) 黒田賞受賞者選考結果

早矢仕学会賞選考委員長より説明、1件の応募があり、岡久雄二氏が受賞候補者と選定された。業績数は十分にあり、社会活動も活発である点が評価された。岡久氏の受賞は承認された。

(2) 津戸基金シンポジウム助成選考結果

早矢仕学会賞選考委員長より説明がなされた。延長期間中に1件の応募があり、日本鳥類標識協会の公開シンポジウムへの助成が推薦され、助成は承認された。鳥学関係の大会開催の少ない北東北においては、鳥類学の成果を広報する貴重な機会であり、予算の必要性も適切と認められた。なお、中村奨励賞、内田奨学賞への応募は無く、委員会内では内田奨学賞へもっと活発に応募してもらうようにできないか、という議論があるが、まだ提案には達していない。質疑は特になかった。

(3) バードフェスティバルの後援

松井事務局長より説明がなされた。毎年後援しているジャパンバードフェスティバルについて、令和7年も11月1-2日の開催（我孫子市）が予定されており、今年度も鳥学会へ後援申請があった。質疑は特になく、後援が承認された。

(4) 洋上風力の事後モニタリング調査手法のガイドラインに関するパブコメ募集（環境省）

風間 WG 長より説明がなされた。洋上風力発電施設建設にともなう事後モニタリングの

調査手法について、適切ではない部分が多い（調査範囲が狭い、バードストライク以外の影響が未考慮、事前調査と同じ手法になっておらず比較が適切でないなど）、などのコメントをまとめ、意見を提出したい。締め切りまでの日程がタイトなこともあり、風発 WG 長名義で提出予定である。WG 長名の場合は報告事項でよいはずだが急な事案であるため念のためここに挙げた。

質疑は特になし、メールにより WG 内審議したのちパブコメを提出予定、提出後に理事会で報告し、学会 HP 掲載予定。

(5) その他

特になし

2. 意見聴取事項

(1) ダイバーシティ推進宣言

堀江ダイバーシティ推進 WG 長より説明。学会宣言（案）について、前回の理事会と代議員総会で意見聴取を行ったが、そこでのコメントを踏まえ、語句・表現を整えた。学会宣言（案）の内容および表現についての質疑は特になし。

この後の予定として、学会宣言となるため会員アンケート（7月中旬から8月中旬、Google フォームを使用）を実施、第3回理事会（8月下旬から9月上旬）ではアンケート結果の報告・宣言文の内容と会員総会決議とすることを審議、大会ではランチョンセミナー開催（推進宣言の紹介、他学会の活動紹介など）、会員総会で審議というスケジュールで進めたい。なお、アンケートについては、委員会内の意見を踏まえ、配布した理事会資料にはなかったがアンケートに「修正のご指摘、ご質問、ご感想等自由にご記入ください」の1文を追加予定。

(2) その他

特になし

3. 報告事項

(1) 和文誌のオープンアクセス化に関するアンケート結果

松井事務局長より説明、98%（N=172）は賛成。意見としては会費減額の有無次第で賛成など。CC-BYについては賛成が96%。そのうえでオープンアクセスを実現するには編集委員会の負担が大きいため、人員補充や予

算増が必要ではないかという課題が顕在化した。文章表現の調整のうえ、ホームページで公開するのが適当だろうという見解となった。

(2) 特別会計の新口座への移行について

植田会計幹事より説明。特別会計について任意団体から一般社団法人への移行に伴い、様々な手続きをしたが、予定通り進まなかったこととして、定期預金口座への移行がペイオフのため不完全となり、定期預金に1千万、残りは普通預金にある。したがって現時点での利率では年間2万円くらい利息が少なくなる。そこで、もう一つ口座をつくって、そちらに定期預金を作ることを考えているが、選挙のタイミング等もあり、今、口座開設してもすぐ名義変更をしなければならないので、もう少し時機を見て作業をすすめたい。

(3) 鳥類学用語集および鳥類目録第7版以前のオンライン公開

第1回理事会で本人は承認済みで、現状について、松井事務局長より説明。ページの下書きはできており、西海氏が原稿を準備中（8月頃公開予定）。

(4) 選挙開票立会人を森 さやか氏に委嘱

松井事務局長より報告。

(5) 浪人生（受験生）の会員区分について

浪人生から入会希望があり、春恒社から「浪人生の会員区分をどうするか」問われた。浪人生（受験生）は、免許証等の身分証明書で一年限りで学生会員を認めて、次年度に大学生になり次第、学生会員であることの証拠書類を提出してもらい、その手続きがなければ一般会員に変更されることを春恒社から本人に通知してもらう、つまりは身分を証明するものがあれば学生と同じ取り扱いでよいだろうか。早矢仕理事（大会会長）より、大会参加費については会員区分に準じるということでのよいのでは、という支持もあり、この手続きですすめるものとする。

(6) その他

特になし

4. その他

特になし

5. 連絡事項

(1) 今後のスケジュール（委員会新任の承認は8月）

松井事務局長より今後のスケジュールについて説明がなされた。

各委員会の新メンバーについて；新任委員については理事会の承認事項になっているので、できれば第3回（8月）でメンバーを挙げてほしい。

拡大代議員懇談会について；札幌大会の9月12日午後もしくは夕方に直接集まって、拡大代議員懇談会をやってはどうかという話が事務局内で出ている。

(2) その他

鳥学会の札幌大会の準備状況について、早矢仕大会会長より、順調に進んでおり、発表等の締め切りが今週末である、公開シンポや企画集会の準備、懇親会の準備も順調だが、支援員会との役割分担が難しいところはある、などの説明があった。みなさんも申し込みをよろしくお願いします。

2025 年 一般社団法人日本鳥学会

定時代議員総会 議事録

日時：2025 年 3 月 25 日（火）15 時 00 分 -16 時 40 分

場所：Zoom 会議

議長：綿貫 豊（会長）

記録：風間健太郎（庶務幹事）、三上かつら（事務局補佐）

出席者

代議員の総数 29 名

出席代議員数 22 名

綿貫 豊（会長・代表理事）、嶋田哲郎（副会長・理事）、笠原里恵、風間健太郎（庶務幹事・風力発電等対応 WG 長）、片山直樹、亀田佳代子、川上和人（理事）、齋藤武馬、澤 祐介、白木彩子、高木昌興（理事）、高橋満彦（理事）、田尻浩伸、出口智広、中原 亨、藤田 剛、松井 晋（事務局長・理事）、三上 修、三上（河野）かつら、水田拓、森口紗千子（監事）、山口典之

委任状出席 4 名 先崎理之、早矢仕有子（理事）、森 さやか、吉田保志子

監事の総数 2 名

出席監事数 1 名 森口紗千子

ダイバーシティ推進 WG 堀江明香（代表）

事務局 植田睦之

事務局補佐 三上かつら（議事録作成）

議長 会長 綿貫 豊

開 会

定款第 20 条の規定に基づき、綿貫 豊会長が議長となり代議員総会を開会した。代議員 26 名全員（うち委任状 4 名）が出席しており、事務局より第 19 条に基づき、定足数を満たしていることが確認され、本日の会議は有効に成立した。定款第 22 条の規定により、議事録署名人は議長及び出席者した代議員 2 名から指名すべきことになっており、議長は後日中原 亨代議員、風間健太郎代議員を指名し、本人も承諾した。

1. 審議事項

(1) 2024 年度決算について

植田会計幹事より説明があった。一般会計では、収入として目録売り上げの会計タイムラグ、電子ジャーナルにおける円安の影響、大会会計など、支出としては大会支出、学会誌印刷代（掲載論文数減）、目録印刷費、事務費、法人税などが挙げられた。単年度収支全体としては 11,583,172 円の黒字だが、これには任意団体からの資金移行 8,788,396 円を含む。特別会計は単年度収支は 31,362,609 円の見かけ上黒字だが、資金移行を除くと実質は 249,147 円の赤字。森口監事より、適正に会計処理されていることが報告され、2024 年度決算は承認された。

(2) その他

特になし。

2. 意見聴取事項

(1) ダイバーシティ推進宣言

綿貫会長および堀江 WG 長からダイバーシティ推進のための学会の姿勢を示すものとして、学会としての宣言の案について、経緯、理念、行動指針、および今後の予定について説明。意見を持ち帰り、次の理事会で審議をめぐりて細部を再検討する。

(2) その他

特になし。

3. 報告事項

(1) 2024 年度事業報告

松井事務局長から、学会誌（和文、英文）および目録の発行、年次大会、シンポジウム、講演会の開催、学外団体との連絡定型、保全関係の助言・提言、賞・助成関連について報告がなされた。

(2) 学会誌販売終了について

綿貫会長と植田会計幹事より法人税だけでなく、消費税納付義務が生じ、さらに複雑な事務作業が発生するため、学会誌販売を終了する旨が説明された。本件は理事会では承認済み。

また、学会誌の今後の管理について、松井事務局長より説明があった。学会誌の在庫は貸倉庫料金を払っていること、在庫は処分、鳥類目録 8 版は山階鳥類研究所で一時保管状態であること、今後新規で刷る学会誌部数の計算方法などが述べられた。

(3) 鳥類学用語集のオンライン公開について

(4) 鳥類目録第 7 版以前のオンライン公開について

綿貫会長よりこの 2 件について在庫のなくなった用語集、古い目録についてはオンラインで公開することが理事会で承認されたことが報告された。コメント等特になし。

(5) 寄付金等に関する規程改正

(6) 寄付金申込書を鳥学会ウェブページ上での掲載

松井事務局長よりこの 2 件について、寄付金規程について学会年会費の振込と同時に寄付される場合がある現状を踏まえた微修正があり、規程改正が理事会で承認されたことが報告された。コメント等は特になかった。

(7) ポスター賞規程改正

中原企画委員長より、現行制度ではこれまで年齢のみで応募を制限していたが、社会人経験者なども含めたアーリーキャリア全体を対象とできるよう規程の文言を変更したこと、また、カテゴリを最優秀賞 1 名、優秀賞 1 名と変更した旨の説明があった。本件は理事会（メール審議）で承認され、5 月発行の和文誌にて募集告知予定である。

(8) 学会誌のペーパーレス及びオープンアクセスの現状と課題

中原英文誌副委員長より、オープンアクセス開始時期（2026 年から）、これにともなう運用上の課題（査読者探しなど）について報告があった。続いて出口和文誌委員長より、OA 化に先んじて会員からのアンケートをとることを検討していることが報告された。なお、著作権に関しては和文誌委員会では現状で CC-BY を考えているが、事務局では CC-BY-NC を推奨する意見もある。和文誌委

員会ではもう一度委員会で著作権収入の契約等も含め情報の整理と再検討を行う。

- (9) その他（苫東厚真風力発電事業計画に関する要望書、功労賞（仮称）設置検討グループ報告）

綿貫会長および風間 WG 長より要望書について報告があった。要望書そのものは 2 月 17 日付で理事会で承認されており、生態学会と連名で要望書を発出予定。4 月 7 日に環境省、経産省宛てに会長自ら要望書の手渡し、記者説明が行われる予定であるが旅費等は事務局と相談する。

綿貫会長および高木グループ長より、功労賞について、設置を検討するグループが設置されていたが、メンバー間で合意形成に至らなかったため解散した旨が報告された。

4. その他

特になし

5. 連絡事項

- (1) 今後のスケジュール（委員会規定等の改定スケジュール等の確認）

松井事務局長より今後のスケジュールについて説明があった。代議員選挙は、5/5 から主席代議員候補者の立候補・推薦受付、マイページを使った電子投票の準備など。理事会は 6 月、8 月、12 月、2026 年の 1-2 月、臨時代議員総会は 8 月、会員総会 9 月にそれぞれ実施予定。

- (2) その他

札幌大会の準備状況

高木大会会長より、シンポジウム、ミニシンポをはじめ詳細は和文誌に掲載されるので参照されたしとの報告があった。

一般社団法人日本鳥学会 2024 年度事業報告

- (1) 学術雑誌及び刊行物の編集

- ・日本鳥学会誌を 2024 年 5 月と 10 月に発行し、原著論文 10 報、短報 3 報、観察記録 9 報を掲載した。
- ・Ornithological Science を 2024 年 1 月と 9 月に発行し、総説 1 報、原著論文 6 報、短報 6 報を掲載した。
- ・日本鳥類目録第 8 版を 2024 年 9 月に発行し、2,200 部印刷した。

- (2) 年次大会、シンポジウム、講演会などの開催

- ・日本鳥学会 2024 年度大会を 2024 年 9 月 13 日から 16 日に東京大学で開催した。一般／学生 874 名、高校生以下 217 名、ブース出展者・協賛企業・広告掲載企業 32 名、オンライン参加 71 名の総数 1,194 名の参加があった。
- ・大会の公開シンポジウム『野生鳥類と高病原性鳥インフルエンザ：大規模感染に立ち向かう』を 2024 年 9 月 16 日に中央大学で開催した。
- ・鳥の学校：標本製作講習を 2024 年 9 月 16 日に山階鳥類研究所で開催した。

- (3) 鳥学の研究、調査及び内外の関連学会との連絡提携

- ・自然史学会連合、男女共同参画学協会等を通して関連学会との情報交換、連携を行なった。

- (4) 鳥学に関する情報の提供並びに鳥類の保全と管理に関する助言及び提言

- ・ホームページや鳥学通信を通して情報発信を行なった。
- ・地域脱炭素化促進事業の促進区域の設定に関する環境配慮基準（素案）に対する意見書、海鳥の集団繁殖地における外来哺乳類対策を求める要望書および瀬戸内海（上関）における中国電力の使用済み核燃料中間貯蔵施設建設計画に関する要望書を提出、世界自然遺産・知床における携帯電話基地局と太陽光パネルの設置計画の中止を求める意見へ賛同した。

- (5) その他、学会の目的を達成するために必要と認めた事業

- ・黒田賞、内田奨学賞、中村司奨励賞、日本鳥学会ポスター賞の募集をし、優秀な研究を表彰した。内田奨学賞の受賞者はおらず、ほかの受賞者は以下のとおりであった。

黒田賞：森口紗千子（日本獣医生命科学大学 獣医学部 野生動物学研究室）

中村司奨励賞：飯島大智（東京都立大学大学院 都市環境科学研究科）

日本鳥学会ポスター賞：天野孝保（長崎大学大学院）・田上結大（愛媛大学大学院）・水越かのん（筑波大学）

- ・津戸基金によるシンポジウムの公募を行ない、きしわだ自然資料館の「大阪湾・海鳥っぷシ

ンポジウム・この鳥を見よ」への助成を行った。

・学会に寄せられた書籍を管理し、保管した。

2025 年度日本鳥学会黒田賞選考報告

学会賞選考委員会委員長
早矢仕有子

学会賞選考委員会で規定・運営指針に則して研究内容のオリジナリティ、鳥類学における重要性、将来性などについて検討、審査の上、受賞候補者を理事会に推薦し、下記の通り決定された。

記

受賞者：岡久雄二（人間環境大学環境科学部フィールド生態学科）

選定理由：

岡久雄二氏は、フィールドでの行動生態学研究から研究キャリアをスタートさせたのち、トキなどの絶滅危惧鳥類の生息域内・生息域外保全に関わり、その中で大きな役割を果たしてきた。絶滅危惧種についてのモニタリング調査を行い、得られたデータにベイズモデリングなどの統計手法を駆使することで研究を発展させている。そうした業績の一つである、放鳥後のトキ個体群についての統合個体群モデルの解析は、以後のトキの保全政策のあり方を方向づける重要な仕事である。また保全活動の実践についても、さまざまな鳥種に関して組織を主導し、地域社会との協働を行いながら着実な成果をあげている。生息域内保全・生息域外保全の双方の領域で、フィールド調査から保全施策の評価・実践まで分野横断的に関わっている点において、岡久氏は日本において代替不可能な重要な地位を占めている。また一般誌などへの寄稿や一般向けの講演なども積極的に行ない、鳥類学の普及にも大きく貢献している。こうした保全生態学の研究と実践の分野における今後の活躍が期待される。

なお、受賞内容は総説として日本鳥学会の学会誌に掲載予定である。

参考) 主要論文リスト

1. Acharja IP, Okahisa Y, Green MC, Lhendup T, Tshering S, Phuntsho T, Tobgay T, Lungten L, Tshering J, & Lek S (in press) Investigation of effective conservation measures for the critically

endangered White-bellied Heron *Ardea insignis* using an Integrated Population Model and Bayesian Population Viability Analysis. *Avian Conserv & Ecol*

2. 岡久雄二 (2023) 自然観光資源活用が野生下のトキの保全へもたらす正と負の影響。保全生態学研究 28: 37–50.
3. Okahisa Y, Kaneko Y, Nagata H & Ozaki K (2022) Effects of rearing methods on the reproduction of reintroduced Crested Ibis *Nipponia nippon* on Sado Island, Japan. *Ornith Sci* 21: 145–154.
4. Okahisa Y (2022) Lessons learnt from the successful reintroduction of Crested Ibis *Nipponia nippon*. *SIS Conserv* 4: 3–9.
5. Okahisa Y & Nagata H (2022) Evaluation of ongoing Crested Ibis (*Nipponia nippon*) reintroduction using an integrated population model and Bayesian population viability analysis. *Ibis* 164: 1104–1122.

津戸基金によるシンポジウム助成選考報告 (2025 年度)

学会賞選考委員会

学会賞選考委員会がシンポジウムの内容、条件等について審査を行ない、理事会に推薦し、10 万円の助成が決定された。シンポジウムの内容は以下の通りである。

記

名 称：「鳥を調べ、鳥に学ぶ」

（第 39 回日本鳥類標識協会全国大会開催記念公開シンポジウム）

責任者：作山宗樹（第 39 回日本鳥類標識協会全国大会実行委員会事務局）

日時・場所：2025 年 11 月 8 日（土）13:30–16:30
いわて県民情報交流センター（アイーナ）

趣旨：鳥類の生態や行動、進化などを調べる際に、鳥類を捕獲・標識して初めて分かることは多い。岩手県盛岡市での日本鳥類標識協会の大会開催を契機として、鳥類を捕獲して行う研究を通じて、鳥を調べる面白さや興味深さを伝える場として本シンポジウムを企画した。シンポジウムは無料公開として特に一般の方々の多数参加を目指し、演者は調査研究を広く分かりやすく講演する。

計画の概要：

岩手県を含む北東北では 2006 年度に日本鳥学会大会が岩手大学で開催されて以降、鳥学関係の大規模な大会は行われていない。2025 年に盛岡市で開催される日本鳥類標識協会全国大会を好機と捉え、シンポジウムを広く一般の方々に公開することで、鳥類に主眼を置いた研究を通じて自然環境を調べる面白さ、および生物多様性を理解する機会を提供したい。本シンポジウムは地元や隣県の協会会員および日本野鳥の会もりおかの会員によるボランティアで運営される。

講演者および講演タイトル：（講演順およびタイトルは予定）

- 1) 三上かつら（NPO 法人バードリサーチ） 下北半島のイスカーその形態と生態－
- 2) 菅澤颯人（岩手大学獣医学部） ハシブトガラスなどの野鳥とシラミバエ、鳥マラリアの生態とつながり
- 3) 成田 章（ウミネコ繁殖地燕島を守る会・青森県立八戸聾学校） 燕島のウミネコの生態（長期調査からわかること）
- 4) 高橋雅雄（岩手県立博物館） オオセッカを中心とした草原棲小鳥類の生態

2026 年度学会賞・助成募集について

2026 年度の学会賞・助成募集については、本誌に掲載していません。日本鳥学会ホームページ (<https://ornithology.jp/index.html>) から「学会賞・助成」にアクセスし、募集要項を確認してください。とくに前年からの変更点について注意してください。

一般社団法人日本鳥学会 2024 年度決算

貸借対照表（一般会計）

2024 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科 目	当年度
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	12,365,876
未収会費	2,467,000
未収金	20,000
出版在庫	1,527,393
仮払金	41,211
流動資産合計	16,421,480
資産合計	16,421,480
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	36,478
前受金	3,430
前受会費	4,057,000
仮受金	5,000
未払法人税等	736,400
流動負債合計	4,838,308
負債合計	4,838,308
III 正味財産の部	
1. 基金	
基金	0
2. 指定正味財産	
指定正味財産合計	0
3. 一般正味財産	
(1) 代替基金	0
(2) その他一般正味財産	11,583,172
一般正味財産合計	11,583,172
正味財産合計	11,583,172
負債及び正味財産合計	16,421,480

正味財産増減計算書（一般会計）

2024 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科 目	決算額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
受取会費	6,454,000
普通会員受取会費	5,424,000
維持会員会費	130,000
学生会員受取会費	570,000

科 目	決算額
団体会員受取会費	330,000
事業収益	14,213,636
鳥類目録売上	3,711,000
用語集売上	34,800
電子ジャーナル売上	1,981,089
雑収入	288,007
利子収入	277
会員寄付金	26,900
大会収入	8,171,563
受取寄付金	8,788,396
受取寄付金	8,788,396
経常収益計	29,456,032
(2) 経常費用	
事業費	13,889,111
学会誌	4,496,852
編集費	927,716
英文校閲費	334,112
印刷製本費	2,778,801
会員向け送料	456,223
委員会	1,616,015
日本産鳥類記録委員会	0
鳥類分類委員会	0
企画委員会	118,054
広報委員会	33,022
基金運営委員会	5,951
鳥類保護委員会	5,344
鳥類目録編集委員会	1,308,772
図書管理委員	144,872
出版物送料	140,391
出版物送料	140,391
その他	7,635,853
負担金	35,000
大会支出	7,600,853
事務費	3,247,349
事務外注費	2,405,073
役員旅費	0
印刷費	152,351
通信費	61,974
会費納入手数料	364,473
報酬料	179,930
雑費	83,548
予備費	0
法人税等	736,400
経常費用計	17,872,860
当期経常増減額	11,583,172
正味財産期末残高	11,583,172

貸借対照表（特別会計）

2024 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科 目	当年度
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	31,362,609
流動資産合計	31,362,609
資産合計	31,362,609
III 正味財産の部	
1. 基金	
基金	0
2. 指定正味財産	
指定正味財産合計	0
3. 一般正味財産	
(1) 代替基金	0
(2) その他一般正味財産	31,362,609
一般正味財産合計	31,362,609
正味財産合計	31,362,609
負債及び正味財産合計	31,362,609

正味財産増減計算書（特別会計）

2024 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科 目	決算額
(1) 経常収益	
事業収益	2,173
利子収入	2,173
受取寄付金	31,611,756
受取寄付金	31,611,756
経常収益計	31,613,929
(2) 経常費用	
事業費	250,000
内田奨学賞副賞	0
黒田賞副賞	100,000
中村司奨励賞副賞	50,000
IOC 助成（伊藤基金）	0
津戸基金シンポ	100,000
その他	0
事務費	1,320
雑費	1,320
経常費用計	251,320
評価損益等調整前当期経常増減額	31,362,609
評価損益等計	0
当期経常増減額	31,362,609
正味財産期首残高	0
正味財産期末残高	31,362,609

監査報告書

2025 年 3 月 2 日

日本鳥学会
会長 綿貫 豊 様

監事 関 伸一 
森口 紗千子 

一般社団法人日本鳥学会定款に基づき、日本鳥学会の 2024 年度の事業および会計について監査を行った。

会計幹事より事業実施状況および会計状況については聴取、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、日本鳥学会の 2024 年度の事業は適正に実施され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって、2024 年度の日本鳥学会の事業は適正に実施されたものと認める。

以上